

令和6年度 学校経営計画・学校評価			□4月4日提出		□10月3日提出		☑3月14日提出		学校番号		31		須崎総合		高等学校		課程		定	
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人			基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備															
	【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) ○ 場に応じた適切な行動をすることができ、社会や学校で定められているルールを守ることができる生徒 ○ 仕事などに就きながら、社会で生きていくために自らの進路を切り拓こうとする生徒 ○ 基礎学力・社会性を身に付け、社会人として生計を立てることを考えている生徒 ○ つまずきの経験があっても、それを自立に向けた経験にして成長したいと考えている生徒				【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 定時制の課程 単位制普通科の高校として、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立をめざした科目を設置します ○ 生徒一人一人の学習や進路などの目標の実現に応えられるよう授業を実践します ○ 学年を超えた集団の中で、自分で考えて行動することや、周囲の仲間を尊重し物事を進めていくことで、コミュニケーション能力などのソーシャルスキルを向上させ、地域社会に貢献する精神を培います															
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力 ○ 自ら課題を発見し、解決しようとする力 ○ 他者と協働して課題を解決していく力 ○ 地域の一員として社会に貢献する力																			

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 B 】
授業の振り返りや学習習慣を育てる取り組みなどを通して、生徒が確かな学力と将来にわたって学び続ける意欲が身につくよう細やかで熱心な指導が行われている。これからも定時制に集う生徒に対し手厚い支援をお願いしたい。		
【社会性の育成】	評価	【 A 】
体験活動や大学・専門学校訪問などを通じて、定時制生徒の社会性の育成と自己肯定感の醸成に尽力している。活動に対する経済的な面では学校としての限界もあるが、更なる施策で生徒支援を進めてほしい。		
【チーム学校】	評価	【 A 】
低学力や不登校経験、学び直しの意思のある生徒を受け入れ、一人一人に寄り添い高校卒業や卒業後の進路につながる支援を行っている。何より先生方の顔つきが優しい。地域の学校としてなくてはならない存在であり、今後もその取組に期待する。		

			育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力的向上		★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○学校の授業がよく理解できている生徒の増加(高知県オリジナルアンケートR5第1回:89.5%→R6第2回:90.0%) ○将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている生徒の増加(同アンケートR5第1回:84.2%→R6第2回:90.0%)	○定期考査後や長期休業中にステップアップ講座を開講し、授業の振り返りと基礎的知識や物事の考え方の定着を図る ○授業以外での学習習慣を育てる施策(トライベスト)を定着させる ○進路実現に向けた計画的な取組を推進する	B	○学校の授業がよく理解できている生徒(同アンケートR6第1回6月7日実施:88.9%) ○将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている生徒(同アンケートR6第1回:83.3%)	○トライベストについては週明けにテストを実施し、定期考査と同様に採点後に振り返りの場を新たに設けることで確かな学力の獲得を目指す	○学校の授業がよく理解できている生徒83.3%(同アンケートR6第2回11月8日実施)6.2ポイント減 ○将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている生徒77.8%(R6第2回)6.4ポイント減	○生徒の学習活動に対する苦手意識を克服させる指導 ○生徒の将来の目標をスモールステップで設定し、一つずつ達成させる指導
	社会性の育成		★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○自分という存在を大切に思える生徒の増加(同アンケートR5第1回:57.9%→R6第2回:80.0%) ○物事に取り組む際、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力する生徒の育成(同アンケートR5第1回:73.7%→R6第2回:70.0%)	○仲間づくりのための学校行事等の確保 ○県生徒生活体験発表会参加に向けた取組の強化 ○学校オリジナルCan-Doリストの活用 ○キャリア・パスポートを通して将来必要となる力を確認しながら諸活動に臨む	B	○自分という存在を大切に思える生徒(同アンケートR6第1回:77.8%) ○物事に取り組む際、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力する生徒(同アンケートR6第1回:83.3%)	○授業での成果物(作品等)を共有スペースに展示し、自身の成果物とともに仲間の作品と一緒に鑑賞し振り返ることで、豊かな心を育むことを目指す	○自分という存在を大切に思える生徒66.7%(R6第2回)8.8ポイント増 ○物事に取り組む際、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力する生徒88.9%(R6第2回)15.2ポイント増	○仲間と協働する活動の充実
取組項目	地域協働学習		【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒の増加(同アンケートR5第1回:57.9%→R6第2回60.0%)	○県内専門学校を中心とした学校訪問・企業見学の実施 ○総合的な探究の時間における研究活動「変化していく環境と私たちの生活(1年)」 「災害への備え(2年)」 「よりよく生きる(3年)」	A	○地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒(同アンケートR6第1回:61.1%)	○学校訪問先で撮影した写真と生徒が作成したレポートを共有スペースに展示し、地域の課題や需要を振り返り、自立と社会参画に必要な資質・能力の獲得を目指す	○地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒61.1%(R6第2回)3.2ポイント増	○校外活動の充実と実施時期の最適化
	教科横断的教育		【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けける力の育成	○テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNSを通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている生徒の増加(同アンケートR5第1回:5.3%→R6第2回25.0%)	○情報機器の活用が進むよう、授業展開を工夫する ○地域や社会を学ぶための学校行事等の検討	A	○テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNSを通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている生徒(同アンケートR6第1回:83.3%)	○タブレット端末等を用いて各教科に登場するコンテンツ、特に高知に関連するものを生徒に意識させることで実社会での課題に気付かせ、情報活用能力の向上を図る	○テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNSを通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている生徒77.8%(R6第2回)72.5ポイント増	○学校行事の充実と実施時期の最適化

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○本校の特色や活動を発信する ○外部諸機関との良好な関係構築を図る	○学校生活が充実している生徒の増加(同アンケートR5第1回:73.7%→R6第2回:90.0%) ○クラスで安心して過ごすことができる生徒の増加(同アンケートR5第1回:94.7%→R6第2回:90.0%)	○生徒情報の共有と確認を図る ○須崎総合高等学校定時制教育振興会を通じて地元市町村教育長等と意見交換を行い、良好な関係構築を図る ○特別支援教育コーディネーターによる生徒支援会を実施、SC・SSWによる生徒全員の面談を実施する	A	○学校生活が充実している生徒(同アンケートR6第1回:94.4%) ○クラスで安心して過ごすことができる生徒(同アンケートR6第1回:100%)	○定時制入学を検討する中学生と保護者及び中学校教員に対し、授業風景を含めた学校見学を促す	A ○学校生活が充実している生徒94.4%(R6第2回)20.7ポイント増 ○クラスで安心して過ごすことができる生徒100%(R6第2回)5.3ポイント増	○生徒が落ち着いて学びに向かう環境の維持
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○全定合同の研修・交流機会の拡大、ストレスの少ない職場づくり ○校内研修(随時→年3回以上開催、不祥事防止月間を6月に設定) ○不祥事防止委員会(新設→年3回開催)	○日頃から、生徒・保護者等・教職員との信頼関係を築くよう留意する ○お互いが注意し合うことを躊躇したり、見て見ぬふりをしてしまったりすることがないように努める	A	○避難所運営の合同研修を全日制・定時制・須崎中の3校で実施、共通課題に対し交流機会の場をもった ○ハラスメント・不祥事防止を中心とした校内研修を6月までに開催した	○教員間で生徒の日々の様子や授業態度を報告し合う風土を、中間評価後も継続する	A ○職員連絡会での打ち合わせを大切に、日ごろからお互いの信頼と協力関係を築けた ○校内研修を計画的に実施し、円滑にコミュニケーションのとれる職場づくりを心掛けた	○互いに声がけを行い、助け合える環境の維持
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○単年度で終わることのない持続可能な学校教育の実現を念頭に、既存業務のスリム化を図る	○月45時間を超える時間外勤務を行った教職員(R5なし→R6なし) ○学校行事の精選による勤務体系の適正化 ○労働安全に係る衛生委員会の適時開催	○個人プレーに依存するのではなく組織で動く ○個々の業務分担の平準化を図る ○生徒支援における専門機関との連携を強化する	A	○月45時間を超える時間外勤務を行った教職員(なし) ○全日制・定時制合同の衛生委員会を毎月開催し、教員間で内容を共有した	○教員間で準備や片付け等に基づき、助け合える風土を、中間評価後も継続する	A ○月45時間を超える時間外勤務を行った教職員(なし) ○全日制・定時制合同の衛生委員会を毎月開催し、教員間で内容を共有した	○互いに声がけを行い、助け合える環境の維持